

令和6年度第2回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

- 日 時：令和6年12月6日（金）16:00～18:00
- 場 所：日本万国博覧会記念公園事務所 4階 第2応接室
- 出席委員：清水会長、天野委員、橋寺委員、山本委員、三木委員（リモート）
- 事務局：府民文化部副理事、日本万国博覧会記念公園事務所所長 他

I 開会

II 議題

○議題 審議会について（会長選出、緑整備部会設置）

（事務局より委員の互選により会長を選出する旨を説明）

（三木委員）今後、将来ビジョン2040に基づき、公園の活性化に向けて議論を行っていく必要がある。万博記念公園における取組みは多岐にわたるため、公園について詳しく、かつ幅広い分野をカバーできる観光分野を専門とする清水委員が適任と考える。

（一 同）異議なし。

（事務局）それでは、清水委員に会長をお願いする。

（清水会長）各委員の力をお借りしながら、より良い万博公園の運営に努める。2年間よろしくお願いする。会長に事故があった際の職務代理については、審議会規則に基づき会長の私から指名することになるが、三木委員にお願いしたい。

（三木委員）謹んでお受けする。

（清水会長）審議会規則に基づき、必要に応じて、部会を置くことができる。将来ビジョンの基本理念である「緑に包まれた文化公園」の実現に向けては、専門的知見を持った方々に公園の緑について審議していただくことが重要と考える。これまでと同様に、自然環境・景観の保全・整備等の調査審議のための「緑整備部会」を設置してはどうか。

（一 同）異議なし。

（清水委員）部会に属する委員及び部会長については、審議会規則に基づきにより会長が指名する。事務局から委員名簿案を配付する。部会委員は名簿のとおりとし、部会長は造園分野に造詣が深く、過去にも本審議会の緑整備部会委員等、様々な委員経験もある山本委員にお願いした

い。

(山本委員) 謹んでお受けする。

○議題 万博記念公園の取組みについて

(事務局より万博記念公園の取組みについて説明)

(清水会長) 事務局からの説明について、質問・意見・提案をお願いします。

(山本委員) 日本庭園の文化財登録までの過程に敬意を表する。今後は施設の老朽化対策が必要である。

併せて、日本庭園が立地的に奥まった場所にあるため、来園者が行きにくいと感じる。だからこそ、日本庭園の魅力を来園者や海外へ伝えられる情報発信に考慮しながら、認知度を上げていく取組みをしていただきたい。認知度が上がることで、次の段階へつなげられると思う。

(事務局) 日本庭園の認知度の向上は課題であり、昔に比べて、来園者が減っている状況にある。先日外国人を対象にアンケートを取ったが、実際に来られた方の満足度は高いものの、知らなくて目的地として来られていない方も多い状況にあり、情報を発信して知っていただくことが必要と考えている。実際に来られても案内が不足していてどこにどのような価値があるかわかりにくいといった意見もあるため、外国語表記も含めて、案内を充実させる取組みを考えていきたい。これらの取組みについても、アクションプランに盛り込めたらと考えているが、調整中の部分もあり、調整が整い次第、反映していきたい。日本庭園までのアクセスの悪さや案内も含めて、今後考えていく。

また、現在中央休憩所の改修を指定管理者が企画しており、来年の春ごろに完成予定となっている。そのタイミングでも、日本庭園文化財登録の情報発信や PR をしていけたらと思う。

(橋寺委員) 今回は名勝としての文化財登録だが、以前日本庭園に行き、建築物と庭の関係が良いと感じた。従来の伝統的な庭園と現代の部分の両方があり、建築物が重要なファクターだった。

老朽化と情報発信はもちろん課題であると思う。日本庭園の記録を見たが、記述が少なかった。後追いで良いので、情報が出されると、いろいろな層の興味を持った方がより関心を持つと思う。加えて、1970 年大阪万博から 50 年経った良さも出せたら良い。使っていない建築物のデザインの良さもあるため、良いところを残しつつ、新しいところを加えるような改修がされると良い。

(清水会長) レガシーを大切にしながら、改修を進めてほしい。

(橋寺委員) 日本庭園の内部について、今のままだと魅力に欠けるため、50 年以上経った良さを残しつつ、日本庭園の新しさがあればより良い。

(清水会長) 公園は自然なものだからこそ、形が変わっていくと思う。50 年の変化を伝えられたら、深く考えてもらえるものになるのではないかなと思う。また、日本庭園について、入口から入りにくいと感じることがある。入口まで自然と入られるような形にしていきたい。

(三木委員) 万博記念公園が 1970 年大阪万博の跡地として成立する中で、当時のパビリオン等を解体して、都市計画家の高山英華が設計し直し、緑に包まれた文化公園になったという経緯がある。まだ自立した森にはなっていないが、万博記念公園の相当なエリアが森になった。一方で日本庭園もあるため、万博の森と日本庭園の役割が少し被ってしまっているところが、来園者が価値を感じにくいところだと思う。

万博の森自体が 50 年以上経っているが、自然の森を作ることがビッグプロジェクトだと考える。しかし、そのプロジェクトの計画内容や詳しいプロセス、もともとの計画でどのように変化したか等をほとんどの府民は知らない。だからこそ、万博の森がどのような経緯でできたのかをアピールするべき。先日、写真家の畑祥雄氏が万博の森の写真展を行っていたが、森自体を積極的に評価しないといけないと思った。先例として明治神宮の森やセントラルパークがあるが、万博の森も自らの手で自然の森を作るという現在の SDGs に先がけているものである。このようなことを強調するようなアピールをすべきだと思う。

先ほど、来園者のうち、200 万人がリピーター、70 万人が新規の方とおっしゃっていたが、この森は安全だからこそ、子どもたちの環境教育に対して、近隣の方に積極的に何度も使っていただけるようなアプローチを取っていく必要がある。

(三木委員) 大阪万博の資料公開について、2025 年大阪・関西万博が近づく今がラストチャンスだと思う。デジタル資料を公開することと、できるだけ既存のプラットフォームで公開を安価に済ませることが必要だと思う。資料を見るのにお金は要求しなくて良いと思う。特に外国人へこのような資料があるというブランディングを広報として積極的に出すべきだと思う。

もう 1 つ、1970 年大阪万博の資料の公開について、来年の 2025 年大阪・関西万博が終われば、1970 年大阪万博を思い返す方は相当少なくなると思う。1970 年大阪万博に行った方が年々減っていく中で、1970 年大阪万博がどのようなものだったのかわからない歴史になっていく可能性がある。

デジタル化した資料を積極的に公開すべきだと思っているが、積極的に公開するにあたって、システムの運用や開発を難しく考えると、膨大な費用がかかってしまう。そのため、できるだけ Youtube などの既存のプラットフォームを使って、デジタル化の公開を安価にする。そして、デジタル化して見せる部分に関してはお金を取る必要がないと思う。できるだけ資料を見せていって、周りの人に情報を発見してもらうということをすべきだと思う。

特に 1970 年大阪万博に興味を持たれる外国の方がいるが、1970 年大阪万博のアーカイブにアクセスできる方法を知らないため、このようなアーカイブがあるのだということを示

して、ブランディングをしていくのが良い。データを利用することによってお金を取るのではなくて、広報やブランディングとして、より積極的にプラットフォーム使うべきだと思う。

(事務局) 万博の森については、緑整備部会でも議論を重ねており、さらに再生するためにどのような手法がいいのかというところをご意見いただきながら取り組んでいる。ただ、この取り組みがあまり来園者に伝わらない。例えば、モデルエリアで、木を植え替えているが、そこで木を切っているだけのように見られてしまう。そのため、万博の森をどのような形で進めているのか、発信を行い、府民に知っていただくのが重要であり、取り組み状況を情報発信できるように検討している。自然観察学習館の施設も活用しながら、府民に知ってもらうように工夫していきたい。

(事務局) アーカイブ化については、今年度中に映像の電子化が終了し、写真の電子化をしている状況。いかに安価にかつ効率的に公開していくのかについては、検討した上で、委員にご相談させていただく。

(天野委員) 日本庭園について、アクセスの悪さは私も感じていた。日本庭園の背景は非常にすごいもの。日本でも有数の広さを誇る日本の庭園であり、かつ日本の庭園文化のダイジェストが広がっている場所である。ただ、なかなか奥まっていることもあり、知られていなかったり、知ってはいるけれどもなかなか訪れにくかったりする。例えば、地元の方であれば何度もリピートするかもしれないが、カジュアルに公園を訪れるといったように、観光客が時間のない中で、往復1~2キロを歩けるのか。せいぜい国立民族学博物館まで行って、疲れて終わりといった感じになってしまう。

例えば、ファミリー層や親子連れ、エキスポシティを訪れることをメインとして来園した若い友達同士といった人たちが万博記念公園の全てを1回で堪能するという状況にはなりにくい側面があるのだと考える。

だからこそ、PRという点で言うと、万博記念公園の日本庭園ならではのものがあると思う。公園の広さだけで何時間もいられたり、いろんな文化をダイジェスト的に味わえたりするのは日本で万博記念公園だけなのだというようなアピールの仕方で工夫して行ってもらいたいというのが1つである。もちろんアクセスの改善も必要だと思う。

それと関連して、KPI資料に、来園者270万人を目指すとの記載があり、目標数値に迫りつつある。地元の方々はリピーターとして、何度もというような考え方になると思う。一方で、観光の場合、例えばディズニーランドやユニバーサルスタジオのように、まだ見ることができていないものがあるからもう1回行きたいと思うようなことがある。万博公園では、太陽の塔という一番シンボルチックなものを見て満足してしまうため、そういったインセンティブのようなものというのは、なかなか難しい。万博の森や日本庭園にも素晴らしいものが多いにも関わらず、公園を一度見たら、もう満足してしまうような感じになってしまう。よって、何度も行ってもらえる仕掛けを今後作っていく必要がある。情報発信も当然だが、そういった

ことを考えていく必要があると思う。例えば、デジタルスタンプラリーのように、万博記念公園のアプリを使って、日本庭園や万博の森の奥に行けばスタンプラリーを楽しめる等である。元々、万博のレガシーを一周する形で、ルートはある程度確立されているため、1回行っただけではスタンプが集められないようにして、楽しくリピートできるような仕掛け作りを作ってほしいと思った。

年間パスについては、万博記念公園に一度訪れ、面白いと感じた遠方の人向けに、回数券的なものがあれば良いと思う。もう1回行けば、プラス何かがつくような工夫をして、店舗の観光客もリピートしてもらえ仕掛けが必要だと思う。

(事務局) 今、大阪観光局が、万博記念公園とエキスポシティのニフレル、観覧車をセットにした周遊パスを作っており、万博記念公園だけではなく、周りの施設も含めて、一体的に周る取組みをしている。そのパスを利用すると、1日中この辺りで過ごすことができる。

万博記念公園の入場料は260円と非常に安いので、それがネックで何度も来園しないということはおそらくないと思うが、それよりも情報発信を行い、何度も来ていただいた上でいろいろな楽しみがある場所だということを知っていただくというのが大事であると思う。指定管理者がデジタルマップを作成しており、園内各所のいろいろな見どころをデジタルで紹介するという取り組みを行っているため、そういったものを活用しながら、様々な情報を発信し、いろいろな場所があるということを皆さんに知っていただくことを考えていきたいと思う。

(清水会長) 2025年大阪・関西万博の時に機運醸成や連携を通じて、1970年大阪万博と2025年大阪・関西万博の情報をうまくお互い流して、より連携していく話があったと思う。2025年大阪・関西万博で1970年大阪万博を想起していただき、より来園していただくような仕掛けをするという話が何年か前から多く出ていたが、現状で考えられている仕組みは薄くなったと思う。

今回もイベントだけであるため、パビリオンまではいかなくとも、常設展のようなものでアーカイブを常時流したりするのだと思っていた。2025年大阪・関西万博で、昔の万博はどうであったか興味を持つことができる連携があるのかと思っていたため、ただイベントとして終わってしまうのは残念だと思う。

改善できる方法を考えられるのであれば、2025年大阪・関西万国博覧会協会と話をしながら前に進めていただきたい。2025年大阪・関西万博で多くの方が来られるので、レガシーや昔のものが好きな人、特に外国人にとって、どのように日本が発展してきたのかが分かるものになるので、直接情報を見せられるような形にしてほしいと思う。

KPIで年間来場者数270万人ということだが、今、指定管理者がイベントを実施し、かなり集客ができていると思う。ただ、イベントへの来場者の目的は、そのイベントに来ることなので、リピーターになるかどうかは難しいところだが、逆にチャンスになるのではと思う。イベントへの来場者にどうアピールをするか、どうやってリピーターを繋げるかが非常に大きいと思う。チャンスをうまく使えていないと思う。

したがって、イベントへの来場者にどのように案内・PRをしていくか。そして、イベントだけでは終わらず、もう1歩を進んでもらうかというところを考えてほしい。太陽の塔なども見てほしいと思うので、普及の仕方を考えていただきたいと思う。

資料3において、観光面でみると、ホテルが第3期になっており、現在、隣のホテルがもう閉まっている状態である。そうすると、ホテルはないが、第1期でアリーナを作ることになる。アリーナがほぼ毎日稼働するとすれば、かなりの来場者がいると思う。遠方からの来場者がライブに参加すると、遅い時間になると思われる。もしここにホテルがあれば、泊まって次の日に太陽の塔を見に行くとなるかもしれない。難しいと思うが、ホテルをもう少し早く作ってもらえないか。

要は、集合住宅の需要とホテルの需要とどちらが高いのかということ。通常、アリーナを建設すると他の商業施設や宿泊を考えるとと思うが、その順番がどうなっているのかと思う。これほど大規模な開発で難しいかもしれないが、モノレールの件も、1時間ほど乗れないことや交通の問題もあり、近隣の住民も懸念しているところである。ホテルがあれば、多少の緩和はできるのではないかなと思う。

(事務局) アリーナの件で、説明が不足していた。第1期ではアリーナだけではなく、隣の商業・カジュアルホテル棟も第1期施工になっている。加えて第3期でさらにホテルという形になっている。アリーナの右側の商業・カジュアルホテルというところが第1期である。

(清水会長) 承知した。カジュアルホテルとは、ビジネスホテルのようなものか。

(事務局) 詳細はこれからだが、第1期にホテルがないということではない。

(清水会長) どれくらいの部屋数があるかも関わってくると思うので、そのあたりの需要も計算して考えていただければと思う。

(事務局) 2025年大阪・関西万博と連携した1970年大阪万博の広報の関係で、連携でイベントを考えており、2025年大阪・関西万博への来場者を1970年大阪万博開催地である公園に取り込むためのイベントにかかる公募事業者が先日決定し、今後、協議をしていく。民間事業者の知見を活かして、いかに呼び込むかというのは今まさしく検討しているところである。

(清水会長) とても良いことだと思うが、それはPRのレベルであるのか。実際に2025年大阪・関西万博の中で何かができるというわけではなく、PRを含んでいるのか。

(事務局) 2025年大阪・関西万博の当日の会場で企画展を予定しており、その企画展の中で、いかに1970年大阪万博に興味を持った上で、この公園に来てもらえるのかということを考えている。

(清水会長) 期間はどれくらいか。

(事務局) まだ詳細は決定していないが、数日間、企画展を開催し PR をする予定である。

(清水会長) 数日ということだが、少しでも長くできれば良いと思う。

(山本委員) 連携をされるというのは非常に良いことだと思う。それとは別に商業施設のエキスポシティがオープンしていると思うが、そこで、公園に誘うような仕掛けを盛り込んだりされているのか。

(事務局) 隣にある商業施設も連携されていて、かなり大々的に万博公園の紹介をしているところもある。また、モノレールでも万博記念公園の紹介をしていただいております、周辺の施設とは色々連携している。

(山本委員) もう 1 点、今の KPI 目標数値は年間来場者数 270 万人ということで、次年度に関しては、2025 年大阪・関西万博があり、人の流れが大きいので、達成可能かと思う。しかし、それ以降は数値目標として何万人ということを目指していこうとすると、予測ができないのではと思う。次年度は良いが、入園者数に代わる指標を考え出していった方がいいのではないかと思う。この数だけでは、これからの時代に合わなくなってくると思う。

(事務局) KPI について、園内が広く数値的に把握できていないところもあり、数以外の何を大事にするか、それを KPI として観測できるものにするということに頭を悩ませている。今回、短期の 2025 年までのアクションプランということで、その次にアクションプランを考えていくときに、何か他の指標も考慮しながら考えていきたいと思っている。またご相談させていただければと思っているため、よろしくお願いします。

(天野委員) 1 点目は 1970 年大阪万博の接続という意味で、1970 年大阪万博のブースを作り展示をする中で、かつてはどうであって、今はどうであるかというだけではなく、55 年間の物語のようなものを来場者が感じられるものにする必要があると思う。高度経済成長もあった中で、理念として、当時と現在では変わらないものもあれば、変わっているものもあると思う。そういうものを比較して振り返るような何らかの仕掛けを 2025 年大阪・関西万博の時もそうだが、終了後に万博記念公園で 55 年間の振り返るアーカイブ企画のようなもので、その時代の物語を映すような企画は良いのではと思った。

もう 1 つは、大学の人間の立場からすると、学生が活躍したり訪れたりできるようなことで活用ができないかと思う。例えば、ここで学生がイベントをやってみたり、授業まで時間があるのでそこでゆっくりしたりといった、学生主体で公園を使える方法を新たに提案できると良いのではないかと思う。学生を呼び込むような仕組みがあれば、来場者数にも効果があるのではないかと考える。近隣の大学等に年間パスを配り、授業の中でアートイベントを行うといったように、積極的に学生のしたいことを様々な形で叶えられる空間として

活用できれば良いと思う。

現在、万博の森の教育学習プログラムの検討については、環境学習をツアー化したものやSDG s 的なもの等、大阪府から数個のプランを出した上で、各大学の学部で授業で使ってもらうのが良いと思った。公園は自然学習だけではなく、社会科学や人文科学、歴史等、様々なテーマで、フィールドワークができる場所である。また、高度経済成長期の経済を学ぶこともでき、いろいろなテーマで学びができる場所だと思う。学習プログラムの検討で、全体を学びの場としてどう活用できるのかといった視点の中でご検討いただくとよろしいのではと思う。

(事務局) 大学との連携は、指定管理者も取り組んでいて、大学のサークルにイベントを企画してもらったり、イルミナイト万博では大学の協力でプロジェクションマッピングを実施したり、大学から様々な協力をいただきながら行っているところである。

教育への活用は、こういった自然学習だけではなく、平和学習にも活用してもらえないかと検討している。例えば、園内に平和の鐘という 1970 年大阪万博時に国連本部に寄贈された鐘が展示されていた。その時に、国連本部にもう 1 個の平和の鐘が寄贈され、それが、1970 年大阪万博の終了後、万博公園に寄贈された。その鐘を使って平和について学んでもらうため、ただ今、府内の小学校や中学校にご案内して、この鐘をついていただく機会を提供し、そこで、平和を学ぶご案内をしているところである。来週も小学生が鐘をつきに来るが、そういったものを通じて、様々な学習に万博記念公園を活用できるよう、引き続き各学校への働きかけを行ってまいりたい。

(清水会長) 公園を使ってみたいが使い方がわからないということがないように、公園の使い方をパッケージ化し、それをアピールしていくことが必要である。こちら側がうまく提示をしてあげないと、使う側もわからない。

(三木委員) 文化芸術系の方々は国立民族学博物館の展覧会があれば、毎度話題になっている。現在もちょうど展覧会がされていると思う。そういった人は、関心があれば、太陽の塔やパビリオン、大阪日本民芸館に行くことがあると思うが、その内部の事業者との情報の連携等が全体的にマネジメントされていないように見える。今日の KPI の話もあるが、どれだけ万博記念公園内で周遊したかといったものをできるだけ計測すること、あるいは内部の様々な事業者の協議会のような場所を作ると良い。例えば、国立民族学博物館でのモンゴルやインドの展覧会が開催されていたが、1970 年大阪万博のナショナル・デーのように、万博記念公園全体で関連するイベントや飲食などを提供するといった連携をしてほしい。そういう統合的なことができる可能性があるのかお聞きしたい。

(事務局) 周辺の施設とは連絡会議を設けており、情報共有をしているところである。イベントは、指定管理者が万博ニュースという新聞を毎月発行しているが、その中には、必ずしも万博記念公園だけの取組みだけではなく、国立民族学博物館や大阪日本民芸館等、様々なところから取組

みをできるだけ載せてご案内している。情報発信を連携していきたいと考えている。

(清水会長) 1つの場所でイベントに参加していただくと、次のエリアのパンフレットを出す等、数珠つなぎにしていったり、次のイベントを説明したりといったことをアナログでも行っていかなければいけない。園内が広いので、近くの施設や、園内で府民が興味を持っていそうなところを案内するべきだと思う。本日は広報やPRの話になっていると思うが、施設ごとの場所で、各層のターゲット向けに独特のPRを行わなければいけない。先ほど言っていた連携について、次に繋げるために各方面で協力した上で、来園者はどのような思考を持って来られるのかということを考えて、来る可能性のあるところにぜひ紹介していくことを行うのが良いと思う。

(清水会長) 議題が終了したため、司会を事務局に返す。

(事務局) 様々なアイデアやご意見をいただき、感謝申し上げます。
以上を持って、今回の審議会を閉会とさせていただきます。

Ⅲ 閉会